

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である

学校名	佐賀市立北山東部小学校
1 前年度 評価結果の概要	・職員や児童が学校教育目標の「郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成」を常に意識して教育活動に取り組むことができていたので、すべての項目で十分達成となった。 ・学習課題づくりに重点をおいた教師の授業改善と児童の学力向上は一定の成果を上げることができた。来年度はへき地・少人数教育における学習指導法や教育課程の改善を図り、学力向上に取り組む。 ・極少人数学校の特性を活かして、学校行事や学級経営の中で一人一人に出番・役割を与えて承認し、自己肯定感を高める事ができた。児童が夢や目標を持って様々な事に挑戦できるような支援をしていきたい。 ・学校行事の内容見直し等をしたことで、職員一人あたりの時間外勤務時間が昨年度より少なくなった。来年度は校時限の見直し等をしてさらなる働き方改革を進めていく。 ・今年度は3年ぶりに山村留学生を迎えることができ、学校や保護者、地域が一体となった取組をすることができた。里親不足等、課題も多いので、今後も地域、保護者、学校職員で取組の継続・改善の議論を重ねる。
2 学校教育目標	郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成 「進んで学習」「心と体を鍛えて何事にもチャレンジ」「自分も友達も大切に」
3 本年度の重点目標	①めあてをもって主体的に学習し、自分の考えを進んで発信する児童の育成 ②健やかな体と心を持ち、前向きに何事にも挑戦する児童の育成 ③自他や郷土の良さを知り大切にするとともに、相手を思いやり、共に生きようとする児童の育成

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○少人数・複式授業の特性を生かした学習指導法の工夫	○「少人数・複式授業で、自分のめあてをもって進んで学習に取り組むことができています。」と回答した児童85%(11名)以上	・「わたり」「ずらし」を組み合わせた学習過程・学習指導法の工夫。 ・間接指導時の児童同士の学び合いが充実するための手立て。 ・ICT機器の効果的な活用。	A	・先進校視察をしたことで本校が解決すべき課題や目標が明確となり、授業実践やその報告会を通して研究を深めていくことができた。 ・「自分のめあてをもって学習に取り組み、振り返りができる」と回答している。(92%) ・ICT機器を活用することで複式授業の「わたり」「ずらし」を効果的に行うことができた。	A	・学力が大きく向上している。先生達の指導力の成果ととれる。 ・複式学級であっても指導が行き届いている。 ・複式(学級・授業)でも学力が高くて良い。	研究主任 研究副主任
●心の教育	●◎児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎「いつでも・どこでも・だれとでも『みんなが』を考えた行動ができた」と回答した児童85%(11名)以上	・月1回の人権教室の充実を図る。 ・ソーシャルスキルトレーニングの充実を図る。	A	・全職員で分担して人権教室の充実を図ったことで、児童全員が「いつでも・どこでも・だれとでも『みんなが』を考えた行動ができた」と回答した(100%)。保護者・教職員も100%が肯定的に捉えた。今後も現在の取り組みを継続していく。	A	・人権に対する取り組みは非常に大切だと思われるが、当校は、先生、子供達としっかりとした取り組みをされている。	人権学習担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「こまったことやいやなことはすぐに相談できている」と回答した児童85%(11名)以上	・児童が何でも話せる学級経営の充実。 ・SOSの出し方教育の推進。 ・SCを中心とした全員のカウンセリングと心の授業を行う等、教育相談体制の充実を図る。 ・いじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速かつ組織的対応の徹底を図る。	A	・「こまったことやいやなことは、すぐに相談できている。」と回答した児童は85%(11名)。1名が「あまりあてはまらない」、1名が「あてはまらない」と回答している。 ・10月に担任による教育相談タイム(おはなしタイム)を実施した。担任が全児童の話を聞き、児童理解に努め、安心して過ごせる環境づくりに努めたことで数値目標を達成することができた。	A	・少人数なので、いじめについて心配していたが、ほとんどあっていないようで、先生達の努力に敬意を表したい。 ・(児童が)すぐに相談できるところがいい。	教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%(11名)以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%(11名)以上 ○佐賀や富士町が好きだと回答する児童85%(11名)以上	・学校行事や学級経営の中で、一人一人に出番・役割を与えて承認し、自己肯定感を高める。 ・よいことをしたり、がんばったりした児童にシールを渡し、貯まったら表彰する「スターシール」の活用。 ・地域行事と連携した「ふるさとを誇りに思う教育」の推進。 ・授業や学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	A	・児童全員(100%)が「先生はあなたの良いところを見つけてくれている。」と回答した。スターシールが貯まった児童を表彰することで、自己有用感を向上させることができた結果である。 ・地域人材を有効活用しながら授業、学校行事を実施したことで、児童の興味関心を向上させることができた。85%の児童が「将来の夢や目標を持っている」と回答。 ・ふるさと学習を実施し、児童の郷土愛を育むことができたため、「佐賀や富士町のことが好きだ」と児童全員(100%)が回答した。	A	・いろいろな取り組みを実施されており、指導に工夫されているところに感心する。	特別活動担当
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%(9名)以上	・全校剣道を通して、自分の体力づくりに関心を持たせ、基本的生活習慣の大切さを学ばせるとともに、礼節を重んじる態度を身に付けさせる。 ・県保健体育課実施のスポーツチャレンジの種目の中から全校で2種目にエントリーし、目標を設定した長期的スパンで取り組む。 ・昼休みに体育館を開放する等、運動をしやすい環境を整える。	A	・全校剣道では、試合に向けて課題をもって取り組み、友達と協力する姿が多く見られた。 ・スポーツチャレンジには取り組むことができなかったが、昼休みには毎日、全員が外遊びや体育館で体を動かしている。 ・「進んで体を動かしている」と答えた児童は全員だった。	A	・剣道をはじめ、他のスポーツに全児童がチャレンジしているようで、元気な子供達が育っていると感じた。 ・全校剣道が続いていることがすばらしい。 ・(剣道の)朝練が無くなったのは残念だが、(児童は)良くがんばっている。	体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○時間外勤務が月平均30時間以内の職員が90%(8人中7人)以上 ○各種行事や運営のあり方、育友会活動との連携のあり方について見直しを行っている。	・校時限の見直しを行い、教材研究や事務処理の時間を捻出し、勤務時間内に業務に取り組むことができるようにする。 ・「業務改善・働き方改革」のための議論の場を年間2回設定する。 ・地域行事への職員の参加等については、管理職から保護者・地域の方への理解を呼び掛ける。	A	・時間外勤務月平均30時間以内の職員が90%、10月～1月の時間外在校時間は平均で約19時間であった。火曜・木曜の放課後に、職員の教材研究や事務処理等の時間を捻出できた。 ・「業務改善・働き方改革」のための議論の場を7月・1月の年間2回設定した。全職員が「見通しをもったり優先順位をつけたりしながら業務に取り組む、18:00退勤ができている」と回答した。 ・後期の育友会実行委員会を3回実施し、保護者・地域と連携しながら、各種行事を実践することができた。	A	・山村留学に取り組む当校で、少ない時間外勤務で事務を行っておられることは創意工夫されている。努力されていることに感心させられた。 ・時間外勤務が(更に)少なくなったらいいですね。 ・遅くまで電気がついていいることが無くなったので、先生方にもゆとりが出て来ていると思う。	教頭 県費事務職員
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員60%(4名)以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・支援会議を開催し、関係者間での情報共有を図る。	A	・2学期末に、特別支援教育に関するオンデマンド研修を各自で実施するようになった。全職員が「特別支援教育に関する専門性が向上した」と回答した。 ・支援が必要児童に対し、支援会議を開いたり、連絡協議会を重ねたりしながら、情報共有を確実に図ることができた。	A	・先生達の手配り目配りがしっかりと行き届いて子供の指導に当たっておられるように感じる。	教頭 特別支援教育担当
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特色ある学校作りの推進	○保護者・地域と協働した持続可能な取組としての山村留学の改善・充実	○「やまばと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる」と回答した保護者90%以上。	・実行委員会(地域、保護者、学校)で、山村留学のあり方についての議論を重ね、家族留学の推進や里親の発掘等に取り組む、持続可能な取組となるようにしていく。	A	・後期のやまばと山村留学実行委員会を3回開き、保護者・地域との連携を図りながら「もちつき会」「鬼火小屋づくり」「鬼火焚き」等の行事を滞りなく実施することができた。保護者、職員ともに100%が「やまばと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる」と回答した。	A	・県内で数少ない山村留学実施校であり、「鬼火焚き」等も実施されており、特徴的な学校づくりに取り組んでおられ大変なことだと思うが頑張ってください。 ・(やまばと山村留学の取組の)改善が進んで長く続くといいですね。 ・子供達も保護者も協力し合っているのが見てとれる。 ・他校との交流も多いと思う。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・全職員で校長のグランドデザインの共通理解を図り、その達成に向けて教育活動を推進することができた。また、児童も東部小3つのスローガン達成に向けて学習に取り組むことができたため、すべての項目で「十分達成」という成果が出た。 ・少人数・複式授業においてICT機器を効果的に活用することができたため、児童の主体的な学びに繋げることができた。来年度も複式授業においては「わたり」「ずらし」を組み合わせた学習過程・学習指導法の工夫を継続していく。 ・人権教室(月1回)の充実を図ったり地域と連携した教育を推進したりしたことで、児童の豊かな心を育むことができている。今後も、児童が自己肯定感を高め、夢や目標を持って様々な事に挑戦できるような学習環境を整備していきたい。 ・学校行事の内容等について見直しをしたことで、職員一人あたりの時間外勤務時間が昨年度より減少し、教師が児童と向き合う時間の確保ができた。来年度も小さな業務改善を積み重ねながら働き方改革を進めていきたい。 ・令和6年度は山村留学生を迎えることはできなかったが、学校・保護者・地域が一体となり持続可能な取組をすることができた。山村留学においては課題もあるので、今後も地域、保護者、学校で取組の継続・改善の議論を重ねる。
--------------------	---